

持続可能な世界をつくろう JICA債 が担う未来

Vol. 01

持続可能な開発目標：SDGsとは2015年に国連で採択された2030年までの世界共通の目標です。経済・社会・環境のバランスを保った持続可能な社会の実現に向けて17の目標が掲げられており、政府・企業・市民社会などとの連携が必要とされています。国際協力機構（JICA）は政府開発援助（ODA）を実施する機関としてSDGsの目標づくりにも携わるとともに、活動の場である開発途上国においてSDGs達成に向け取り組んでいます。



アフリカ支援 Event Report

第6回 アフリカ開発会議 TICAD

TICADとは

「Tokyo International Conference on African Development」の略。1993年以降、日本政府が主導して国連、国連開発計画（UNDP）、アフリカ連合委員会（AUC）および世界銀行と共同で開催しているアフリカの開発をテーマとする国際会議だ。JICAは初回から、継続して議論や開催に貢献している。

今年8月27、28日 第6回会議 アフリカ（ケニア）で初開催

第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）は今年8月27、28日の2日間、ケニアの首都ナイロビで開催された。日本の安倍晋三首相に加え、アフリカ首脳を含む35カ国、3000人以上が参加。議論の成果として「ナイロビ宣言」が採択された。ナイロビ宣言ではアフリカの新たな課題に取り組むため、3つの優先課題として①経済の多様化と産業化を通じた経済構造転換の推進②生活の質の向上のための強靱な保健システムの推進③繁栄の共有のための社会的安定性の推進——が盛り込まれた。

これらに貢献する具体的支援として、日本政府は2016年から3年間で約1000万人の人材育成と3兆円規模の官民によるアフリカ支援パッケージを発表している。これを受けてJICAは、アフリカ開発銀行との協働による33億米ドル以上の融資「FABEイニシアチブ」の継続などによる産業人材の育成、UHCの推進など保健分野の協力といった具体的支援策を実施していく。



TICAD VIサイドイベントとしてJICAが主催した「TICAD VIハイレベルパネル」

SDGsでは、「すべての人に健康と福祉を」が一つの目標だ。JICAは昨年8月、アフリカケニア共和国との間でユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成に向けた最大40億円の円借款貸し付け契約に調印した。UHCは「ICADの優先課題「強靱な健康システム」の中でも採り上げられた。アフリカにおけるJICAの保健協力について担当職員に話を聞いた。

すべての人々が健康で過ごせる世の中へ ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）

ケニアは東アフリカ地域では比較的裕福な国ですが、国民への保健サービスという面ではまだまだ発展途上です。人口1000万人当たりの医師数は0.2人、看護師・助産師数は0.8人で、これは世界保健機関（WHO）の基準の二次保健医療サービスの提供に必要な医療従事者2.3人を下回っています。毎年、10万出生当たり400人の妊産婦が死亡するという、日本では考えられない現状です。保健サービスの地域間格差の是正や貧困層を中心とした医療保障の拡充など、課題は山積みです。先進国が途上国の健康改善を支援するには何を目標せば

よいのか。それが「UHC」です。すべての人が適切な予防治療、リハビリ、健康増進などの保健サービスが必要なときに支払い可能な費用で受けられる状態を意味します。2015年の国連総会が採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にも、国際的な健康増進の流れの中に「誰一人として取り残されず」という言葉で、UHCの考え方が反映されています。一方で、国際保健協力を外交課題として位置付けている日本政府にしても、日本の国民皆保険制度などの経験を生かしたUHCの達成に向けた支援は重要です。特にアフリカでは保健システムの強化、母子保健の推進、効果的な感染症対策が喫緊の課題になっています。

ケニアに限らずアフリカでは、医療施設に行ってもお医者さんがいないとか、医療スタッフのスキルが低いなど、先進国であれば容易に治る病気が治療されないまま重篤化することがよくみられます。地域によっては、病気がなったら呪術師にお祈り（はら）いをしてもらうという習慣が残るところもあるんです。貧困のため医療費を払えない、何とか借金をして支払ったとしても、その返済のために生活がさらに

困難化するという悪循環も生じています。JICAはこれまで高い保健サービスを持続的に提供できるように、病院などの施設建設や専門家派遣などの技術協力を通じて保健システムの強化を支援してきました。

ここで重要なのは、国家の保健政策や投資計画の策定など「上流」の段階から、各国政府のプランづくりを支援することです。これは、これまでのアフリカに対する様々な経済的・人的支援でJICAが培った信頼関係がベースになければできないことです。政策づくりから地域の行政・保健医療サービスの改善に至るまで、

こうした取り組みに加えて、人々がさらなる貧困に陥ることなく保健サービスにアクセスできる制度の整備がUHC達成に向けて必要であると考え、JICAは医療保障制度の整備にも取り組みを始めた。ケニアではサービス提供の強化や医療保障制度の強化、開発政策借款を通じて支援しています。開発政策借款とは、当該国の確実な政策実行を貸し付け条件とする円借款です。

政策実行が貸し付けの条件基本政策づくりから共に取り組む

私に直接担当するのはアフリカ中西部と南部です。セネガル事務所には駐在した経験もありません。現在セネガル出張の際は保健省や医療保障庁の高官と会い、ケニアのUHC支援も参考にセネガルの状況に合わせたUHC支援を進めるべく協議しています。



セネガルのコミュニティ健康保険は任意加入となっています。長期的に健康保険制度を存続するためには強制加入が望ましいといわれています。しかしセネガルには伝統的なコミュニティの相互扶助の精神を尊重するという考え方もあります。先進国からの一方的な押しつけに終わらないようにするために、現地の文化や伝統を知ることが大切です。これからのアフリカ支援では、国の保健政策のあるべき姿を踏まえて、地域社会の複雑な問題とひとくくりに見られない視点も同時に併せ持つことが欠かせないでしょう。

様々な関係者と協力して支援を行うことで初めて持続的な保健システムが実現できるのです。

アフリカにおけるビジネスへの期待
アフリカでは世界経済が全般的に低迷する中、5%前後の高い経済成長を続ける国も多い。人口も2050年までに20億人に倍増すると予想されており、購買力のある中間層の拡大も期待されている。一方で、アフリカでは保健衛生をはじめとした様々な課題が山積しており、日本企業が有する高い技術力・ノウハウへの期待は大きい。JICAはSDGs達成に向けて企業との連携を積極的に進めており、日本企業と共にアフリカにおける課題解決に取り組んでいる。

いま注目のソーシャルボンド「JICA債」を知ろう！

～ソーシャルボンドとは～

社会課題への対応を目的とした事業を資金用途とする債券。2016年6月にグリーンボンド原則の事務局を務める国際資本市場協会がその定義（対象とする事業及び「資金使途」「事業評価・選定プロセス」「資金管理」「レポート」）についての情報開示を要件とする）を定めた。社会的インパクトを重視しつつある投資家の要請に応じて公表されたもので、環境や社会への配慮、企業統治を重視するESG投資の流れにも沿っている。

～ソーシャルボンドとしてのJICA債～

JICA債の調達資金は持続可能な経済成長支援・貧困削減や地球規模の課題、SDGsに取り組むため、開発途上国向けの融資等（有償資金協力）に充てられている。JICA債は「資金使途」が明確であり、国際基準に基づいた透明性のある「事業評価・選定プロセス」を経て、第三者の点検・監査を受けた「資金管理」がなされ、事業の定量的な評価が実施・公表（レポート）されている。JICA債は独立した第三者機関（日本総合研究所）から「ソーシャルボンド」の特性に従うものと評価されている。



持続可能な経済成長支援・貧困削減 地球規模の課題への取り組み

*本債券の元利金は、JICAの信用力に基づいて支払われるものであり、JICAが行う開発途上国への個別の出融資の結果に直接の影響を受けるものではありません。

持続可能な世界をつくろう「JICA債が担う未来」は日経電子版広告特集でもご覧いただけます

>>> <http://ps.nikkei.co.jp/jica16/>



独立行政法人 国際協力機構
<http://www.jica.go.jp/>